UEDA
Women's Junior College

上田女子短期大学附属図書館報
みすず

No.32
2005.12

「早く読まないと大人になっちゃう」

館長　塩入秀敏

末期の水ならぬ末期の一冊。最近、ある雑誌に「最後の一冊　死ぬ前に読みたい本」という特集があって、作家・評論家・随筆家・文筆家・フリーライター・大学教授など15人の方がそれぞれの一冊を上げている。書いている人たちはいずれも普段から本に深く関わっている人ばかりで、普通のサラリーマンや自営業者などは一人もいない。本を読むことが仕事である超読書家や読書家ではないもっと一般の人を対象にしたらきっと面白いだろうにな、と思える企画であった。

それはともかく、死ぬ直前に限らず、本にはそれぞれ読まれるのにふさわしい読者の年齢や時期があるはずである。幼児期には絵本がふさわしい。少年少女期には童話や伝記、冒険・探検物、少年少女向けの物語や世界の古典がある。短期大学生にも、やはりこの時期に読んでおいたほうがいい本があるはずだ。

『吾輩は猫である』は夏目漱石の代表作の一つだが、私は２回しか通読していない。１回目は中学生のときだった。その時は、知識人が悪ふざけをしているだけのおかしさしか感じなかった。面白くなかったのである。こんな作品がどうして名作とされているのだろうかとさえ思った。２度目は30代半ば過ぎだったと思うが、主人公やほかの登場人物と年齢が近かったせいもあって、今度はおかしさよりも面白さや感慨を感じるようになっていた。名作でも読まれるべき年齢・時期があることがよく分かった。３度目は、多分面白くないだろうと思っている。

標題はある出版社の「少年少女文学全集」のキャッチコピーをそのままお借りしたものである。まさに言い得ていると思う。

感受性豊かな本学諸姉に、魂を震わせるような本に一冊でも多く出会う幸運があれかしと祈っている。

目次　CONTENTS

早く読まないと大人になっちゃう		館長	塩入秀敏	1
心の栄養素とは？	幼児教育学科	助教授	平岡さつき	2
I major in Library and Information Science!	総合文化学科	講師	木内公一郎	3
童話の世界	総合文化学科	2年	飯吉美香	4
もっと知っておきたい図書館の機能	幼児教育学科	1年	小林友美	4
本との出会い	幼児教育学科	2年	山田有美佳	5
今年度の図書館実習について	総合文化学科	講師	木内公一郎	5
実習で学んだこと	総合文化学科	1年	山口晴香	6
本学教員の新刊著作				6
図書館ガイド				7
図書館ニュース				8

UEDA WOMEN'S JUNIOR COLLEGE LIBRARY NEWS MISUZU

心の栄養素とは？

幼児教育学科　助教授　平岡　さつき

教育改革のキーワードとなってきたのが「生きる力」や「心の教育」であるが、近年は食育をめぐって動きがあった。昨年、栄養教諭制度が創設され、今年6月には食育基本法が制定された。命の源を育む根幹に関わる食は、子産み、子育てにおいて「家族」が担う分野の一つと考えられてきたといってよいだろう。個人や家族の領域のことに行政が立ち入ることへの懸念もあるなか、栄養の偏りや不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向、食の安全と伝統的食文化の喪失など、人間としての根幹部分が崩れているとの危機感から、それらへの国をあげての対応がなされたことになる。

先日、長野県保育研究大会に食育の分科会の助言者として参加する機会を得た。そこでは、保育現場で取り組まれている食についての親・子への様々な援助が報告された。食生活調査の結果や、これまでなら就学後に生活科や家庭科で習うような栄養群とその人体への働きを示すカラフルな媒体が披露されていた。子どもに好かれない食材に、その花の写真を見て愛でることによって食材への興味や食べる意欲を引き出すという実践や、収穫の体験を通して食する楽しさへいざなう工夫、厳しい衛生管理のなか苦慮してのクッキングの様子など、率直な交流がなされた。

私は栄養学の専門家ではないが、これまで食品アレルギーや食の安全性など、人類的課題を考察する教職総合演習や卒研ゼミ等で学生とともに考えてきた経緯から、現場における創意工夫に敬意を払いつつ、少々他の国のあり方ともからめてお話させていただいた。

今後、保育現場では、なお一層の行政指導のもと、年齢ごとの食育の目標と評価、年間・期間・月間援助指導計画の立案および作成、食の安全性指導やアレルギーへの対応等、地域や家庭と連携した食育の推進がはかられることになるだろう。

飽食といわれる日本の食の貧困化。なんという皮肉だろう。飢饉や餓死にあえぐ世界の子ども達の存在を想う。そして、月に一度、質素なおにぎりだけを昼食にして、いただけることへの感謝を共有する実践をおこなっている、ある園のことを考える。

手づくり弁当をつくらない親の子どもはグレルといわんばかりの食に関する啓蒙書によって、心を重くさせられるのは私だけだろうか。手づくりがよいにちがいない。だが男女共同参画社会の実現にはまだ遠い現状にある。親に気遣ってコンビニ弁当でいいという子ども、それにすっかり厭きた子どもからお弁当をつくってといわれて毎日限られた時間で時に冷凍食品のお世話になる親の気持ちを少しでも慮ったことがあるのだろうか、と思う。リアリティーのない啓蒙書は人を苦しめるものである。私にとって良書とは、勇気を与え、背中を支え、時に複眼的な視野を提供するものであって、心身を解き放ち、広く豊かな世界へ誘ってくれるものである。

どのような形にせよ「食」には、何らかの生き方や思いが反映されてしまうものであり、思いを込めることもできるものである。これからの教育に必要とされる要素の一つにCare（ケア）がある。Careとは、生きとし生けるものに心を配るという思想、相互に助け合っていくという原理である。とすれば、現実認識と共同性の質が今問われているのだと思う。

I major in Library and Information Science !

総合文化学科　講師　木内公一郎

「What's your major ?」(「あなたの専攻は何ですか」)。ハワイ研修でのヒトコマである。もちろん英語で「I major in Library and Information Scienece」(「私の専攻は図書館情報学です」)と答えた。質問をしたハワイ大学の職員の方は「その学問のことはよく知っていますよ」という感じで受け止めてくれた。

日本でも同じような質問をされることがある。しかし「図書館情報学です」とは率直に答えることは少ない。多くの日本人の「図書館」イメージがとても単純なので、話が発展しないのである。「本を貸してくれる所」「本がたくさんあるところ」というとイメージを持っている。そのため図書館について研究するということが理解できないか、よくわからないという態度を示すことがある。

まず「図書館」を省いて、「情報学です」と答えることになる。「情報学とは国家、社会、組織における情報の流通を研究する学問です」続けて「最近はインターネットを中心とする情報社会の問題が主要な研究テーマです」そして「その情報社会の中心にある図書館を研究しています」以上のように説明すると少し納得してくれる。図書館には普段行かなくても、インターネットは利用するという人のほうが多い。また情報社会の様々な問題に関心を持っている人も少なくないので、このような説明をすると図書館の位置付けを再認識するようである。

図書館はインターネットとは違い、資料や情報を厳選して、利用者に提供している。情報の質はインターネットより格段に高い。さらに図書館では、インターネット上の質の高い、有益な情報を「インターネット情報資源」または「ネットワーク情報資源」と名付けている。これらを厳選して、提供することも一般的になってきた。

インターネット業界でも最近は図書館を再認識し、共同事業を始めている。例えば、検索エンジン大手のGoogle。この企業は「Google Print」という事業を立ち上げている。アメリカの主要な大学図書館や公共図書館の蔵書（本）をデジタル化し、全ページをインターネットで提供しようとしている。（http://print.google.com/）同様の事業はYahoo!でも始まっている。著作権というクリアすべき課題も立ちはだかっているが、インターネット業界が図書館の質の高い資料や情報を再認識したと解釈することも可能であろう。

冒頭で述べたハワイ大学には図書館司書コースがある。しかしコンピュータ学科に設置されていることが日本の大学との大きな違いである。また、アメリカの他大学でも「Library」を省いて「School of Information Science」（情報学専門職大学院）と名乗っている。そのカリキュラムも、図書館だけでなくあらゆる組織に通用する情報管理学を積極的に採用している。卒業生もその専門性を生かして、図書館だけでなく、企業の情報管理部門に就職することも多い。図書館情報学も自らの立場を図書館という狭い場所に閉じこめるのではなく、情報社会の中でそのあり方を模索している最中なのである。

私が目指しているのは日本の一般社会に通用する図書館情報学の普及である。図書館は情報の評価・管理・組織化・検索という知識と技術を持っている。インターネットの時代だからこそ積極的にアピールする必要があるのだ。これらの普及が進んだとき「私の専攻は図書館情報学です」とシンプルに答えることになるのだろう。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

童話の世界

総合文化学科２年　飯吉　美香

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

かぐや姫にうらしま太郎、シンデレラにヘンゼルとグレーテル、私が子供の頃に好きだったお話です。父や母、保育園の先生におもしろくてワクワクする童話を沢山読み聞かせてもらったおかげで、私は本が大好きになりました。

大学生になりさまざまなジャンルの本を読むようになりましたが、昔から変わらず好きな本は童話です。大学一年生の授業で小川未明の童話をとりあげて学んだ時、改めて童話の持つ世界観と私たちに与える影響力やイメージの深さを実感させられました。それからは宮沢賢治の童話にも興味を持ち、読むようになりました。

童話は子供から大人まで楽しく読めるものです。とくに昔の人の童話は、現代では体験できない豊かな自然と懐かしく温かみのある生活が描きだされています。小川未明の『しいの実』という作品では、田舎から送られてきたしいの実を、都会に住んでいる子供たちが珍しそうに「うまい。うまい」と食べている場面など、一体どんな味がするのだろうと楽しい想像がふくらんできます。

そして、童話はその情景が目に浮かぶほどにとても美しい言葉と表現で描かれています。宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』では銀河に流れる水の表現を「銀河のきれいな水は、ガラスよりも水素よりもすきとおって、ちらちら紫色の波をたてたり、虹のように光ったりしながら流れていく。」と書かれています。銀河の水がどれほど綺麗で美しいか、私たちの想像を超えた表現でどこまでもストーリーに引き込んで、あたかも自分が主人公になったような感じにさせてしまいます。

童話は子供のためのものであり、大人のためのものでもあります。心を違う世界に連れていき素晴らしい体験をさせてくれ、そして懐かしい思い出も蘇らせてくれます。私たちは童話の世界に入ることで、より深い人間になれるのではないでしょうか。

・新編　銀河鉄道の夜/宮沢賢治/新潮社/平成17年６月10日

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「もっと知っておきたい図書館の機能」

幼児教育学科１年　小林　友美

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

私は図書館をよく利用している。しかし、その際に自分が読みたい本や探している資料が見つからないことが多かったように思う。図書館をうまく利用できていなかったのだ。

近年、インターネットが普及し、図書館で遠回りしながら苦労して調べることが少なくなった。インターネットは、キーワードを入力さえすれば関連情報が次から次へと表示され、文字情報だけでなく、動画なども表示される便利な手段となった。だから、今すぐに知りたいことを知ろうとするとき、手段はきわめて豊富になった。一方で、図書館は《未利用な資源のたまり場》となっているように思える。図書館で遠回りしながら苦労して調べることが馬鹿らしく思えるのは無理もないと思う。

しかし、図書館で遠回りして調べることには、インターネットでは成しえない全く別の情報に目を向けることができるのだ。こうして、自分の中に新しい情報を取り込むことが可能になるだろう。

今回、北村ゼミでは総合演習の時間を利用し、「図書館での資料の探し方」について図書館司書の方から詳しく教えていただいた。私は、今まで利用していたのに知らなかったことが沢山あり、とても有意義な時間を過ごすことができた。今回教えていただいたことは、授業でのレポートや二年生になってからの論文での資料集めに大いに役立つだろう。

私たちが利用できる附属図書館は、９時から夕方の５時までと利用できる時間は短いが、空いている時間を利用し、足を運んでみてはどうだろうか。

附属図書館は、本や資料のほかに視聴覚資料なども充実している。そして、学生には心強い保育関係の教材（絵本やエプロンシアター等）が多く備わっており、実習の際に役立てることができる。学生は図書館の機能を知らなすぎるのかもしれない。図書館の大いなる機能をもっと活用すれば、一層充実した学生生活が約束されると思うのだがどうだろう。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

『本との出会い』

幼児教育学科２年　山田　有美佳

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

初めて本と出会ったのは、幼い頃読んでもらった絵本でした。母親の膝の上に座り、寝る前に読んでもらった記憶があります。これは多くの人が経験したことだと思います。本との出会いは親子のコミュニケーションが原点となっているのではないでしょうか。

今は短大の図書館で多くの本と出会っています。でも、なかなか読みきることが出来ません。それは飽きっぽい性格が原因しているのかもしれませんが、たくさんの本の中から自分に合った本を見つけるのは難しいです。自分に合った本とは、興味があって面白いと感じる本だと思います。その本を見つけるには、まず実際に手にとってページをめくってみることです。私は今、実際に手にとることを繰り返しています。その中でつまらないなと感じる本もあります。でも、だからこそ面白い本に出会えた時は嬉しくてワクワクします。短大の図書館には多くの本があります。卒業したらもう二度と出会うことのない本があるかもしれません。この機会を逃さないように、出来るだけ多くの本を手にとり、出会っていきたいと思っています。

そして、保育者になった時、保護者の方に絵本の読み聞かせを勧めたいと思います。私が実習した保育園・幼稚園でも、絵本の読み聞かせを呼びかけていました。親子のコミュニケーションの時間がとれるだけではなく、子どもが最初に出会う本となります。親に読んでもらった本は、忘れることのない大切な一冊になるのだと思います。

今年度の図書館実習について

総合文化学科　講師　木内　公一郎

今年の夏休み実習は総勢27名の学生が実習に参加した。実習先は上田情報ライブラリー、上田市立図書館、長野市立長野図書館、長岡市立中央図書館などの県内・県外に及んでいる。今回はじめて中学校の学校図書館にも実習生を受け入れていただいた。

実習生の多くは図書館業務の多様さと量の多さに驚愕していたようである。実習内容はカウンター業務、書架整理、装備（ブッカー張り）、お話し会における読み聞かせなど、学生の興味やレベルに対応したプログラムであった。現場図書館職員の方の熱心な指導によって多くの実習生は充実した１週間を過ごすことができたようである。

なお図書館実習は以下のプロセスで構成されている。

①４月から５月にかけて学生自身が希望する図書館の実習受け入れの内諾を取ってくる。

②実習依頼書を各図書館に発送する。（６月）

③７月中旬に事前指導と説明会を実施する。

事前指導では図書館の基本的な業務内容の説明、「図書館の自由に関する宣言」の確認、利用者のプライバシーの保護、個人情報の保護、職場マナーなどを１時間かけて、講議・指導を行う。

④図書館における実習（約１週間）

この間学生は「図書館実習日誌」に業務内容と反省を記入する。

⑤実習の視察

総合文化学科教員全員が分担し、巡回する。

⑥事後指導

後期開始直後に実習生は実習日誌と実習感想文を提出する。

以上のプロセスで実施されている。

図書館司書課程では実習は必修ではない。あくまでも「自主実習」の扱いである。しかし学生たちは授業では絶対に体験できない貴重な経験をしており、図書館司書という職業への理解を深めることにつながっている。さらには実社会で働くことの困難さを感じることができれば、就職活動に生かすこともできる。今後はカリキュラム上の位置付けを明確にして、実習制度の充実に努めていきたい。

最後に業務多忙にも関わらず実習生を受け入れてくれた図書館の皆様に心より感謝したい。

◆◆◆◆◆◆◆◆

実習で学んだこと

総合文化学科１年　山口　晴香

◆◆◆◆◆◆◆◆

私は長野市の長野市立長野図書館で、６日間実習を行いました。実習では、学校では絶対に勉強できないようなことが体験できたので、本当に充実した６日間でした。

まず１日目は館内の案内をしていただきました。図書館は本のある場所ではありますが、本だけでなく、建物等にもさまざまな工夫がされていました。

２日目は資料の選定や検品、装備・修理、相互貸借等について実習をしました。検品作業は細かいことですが　これをやらないと貸し借りがスムーズにできないので大切な作業だと思いました。本の装備は思ったより簡単で楽しくできました。

３日目はカウンター業務の説明を受け、実習を行いました。カウンター業務は全てパソコンでおこなうので、まず操作をおぼえるのが大変でした。また、個人情報がたくさん入っているので、それにも気をつけなければなりません。カウンター業務は仕事がたくさんあり、利用者に一番近いところでもあるので、いろいろな対応をしつつ、たくさんの作業をしなければならないので見た目以上に大変な仕事だと思いました。

４日目は、開館20周年記念のイベント「おはなしドキドキぱーく」が行われました。そこで私は、おはなしぱけっと号という絵本を1000冊のせた移動図書館のキャラクター「オハジョナ」のきぐるみを着て、子どもたちとふれあいました。今まで小さな子どもたちの相手をしたことがなかったのではじめは少し戸惑う場面もありましたが、だんだん楽しくできるようになりました。その日の午後、毎週恒例のおはなし会で絵本の読み聞かせをやりました。かなり緊張していましたが、２日前から少しずつ練習してきたので、なんとか読み終えることができました。長野市立図書館では毎週のおはなし会を職員が交代で行っているそうなので、普段の仕事のほかにも様々なことをやらなければなりません。

５日目は、他の実習生と交代でカウンター業務と配架をしました。だんだん仕事に慣れてきて、本の場所も覚えられるようになりました。カウンター業務では貸出や返却のほかにもお客様の質問に答えられたことがとても嬉しかったです。初めのうちはとにかく仕事をこなすことで精一杯でしたが、このころになってお客様に対する言葉遣いなど細かいことにも気をつけなければならないと思いました。

最終日はレファレンスの実習を行いました。説明を受けたあと、実際に自分たちで以下のことを調べました。

・長野県内の市町村役場の所在地で一番標高の低いところは？
・年号「平成」の意味は？他に候補になったものは？
・「クラスタマメ」とはなにか。(写真も)
・ものぐさ太郎が寝ていた場所はどこか。

私は以前、図書館にレファレンスサービスがあることを知らなかったのでこの実習でどんなことなのかよくわかりました。ひとつのことを調べるのに結構時間がかかるので、仕事をしながら調査をするというのは大変なことだと思いますが、それが自分の知識にもなっていくのでやりがいのある仕事だと思いました。

６日間の実習中にいつも思っていたことは、図書館の仕事は私が今まで思っていた以上に大変な仕事だということです。カウンター業務といっても貸出・返却だけでなく、今どんな本が人気なのかなど常に情報収集していないとわからないこともありますし、コピーサービスに関する著作権法についてもきちんと勉強しておかなければなりません。図書館の職員は幅広い知識が必要だし、いろいろなことに対応する力、応用する力が必要だということを学びました。本当によい体験になりました。実習に参加してよかったです。

本学教員の新刊著作

（本年中に発行された単独著書・共著・分担執筆）　　著者名の五十音順

＊長田真紀先生 『史記・春秋戦国人物辞典』	（新紀元社）	2005.10月刊	1,900円	（分担執筆）
＊金山美和子先生 『実践・子育て学講座 第3巻 子育ての環境学』	（大修館書店）	2005.4月刊	2,310円	（分担執筆）
＊北村恵子先生 『表現力の育成と教材開発』	（日本教材学会）	2005.11月刊	1,000円	（分担執筆）
＊平岡さつき先生 『学校と学区の地域教育史』	（川島書店）	2005.4月刊	3,150円	（分担執筆）

＊＊＊図書館ガイド＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

図書館で利用できるデータベース・新聞記事検索

今は、いつでも・どこでも・誰でもがパソコンを操作利用出来る時代になりました。パソコンの小型化軽量化で、携帯電話でもかなりの情報のやりとりができます。そんな時代に図書館も図書・資料を保存し、提供するだけでは利用者の多岐にわたる要望に対応しきれません。

そこで、本学図書館では、今年度新たに下記のデータベース検索・新聞記事検索の契約をし、皆さんの便宜を図っています。以下主なデータベースをご紹介します。

1,「Japan Knowledge」(知識探索支援サイト・ジャパンナレッジ)

小学館が刊行した「日本大百科全書」、「日本人名大辞典」「JK Who's Who」「デジタル大辞泉」「ランダムハウス英和大辞典」「プログレッシブ英和中辞典」「同・和英中辞典」「情報・知識imidas」「現代用語の基礎知識」等を中心にした百科事典・辞書・ニュース・学術サイトURL集などを集積した日本で最大の知識データベースです。「日本大百科事典」は毎月内容が更新されている唯一の百科事典です。

利用するには：学内のどのパソコンからでも利用出来ますが、IPアドレス認証方式なので、同時アクセスは1台のみです。他の人が利用していたら、しばらく待って利用して下さい。

2,「信濃毎日新聞記事データベース」(信濃毎日新聞社)

ご存知、ローカル新聞「信濃毎日新聞」の記事データベースです。新聞記事は、その日の朝刊の内容は、誰でも無料で見ることができます。1晩経過したものは、すべて有料となります。別途、新聞社と契約を結ばなくてはなりません。1995年以後の新聞記事が検索できます。（一部著作権の制限により利用できない記事もあります）

利用するには：1IDを図書館のみで契約しています。利用希望者は司書に申し出て下さい。代行検索をします。

3,「G-サーチ」(株式会社ジー・サーチ)

国内100万社以上の企業・2500万件以上の新聞記事・40万件以上の人物情報から、科学技術・法律・特許・書籍・雑誌までの豊富なコンテンツを収録した大型データベース。

特に全国の新聞記事の横断検索が可能で、北は北海道新聞から南は琉球新聞までのローカル紙を検索することが出来ます。（但し信濃毎日新聞は除外）通常は、朝日・毎日・読売・産経の全国紙4紙と、通信社の共同通信の計5紙の横断検索をすれば、大体のニュースは網羅されているので便利です。

利用するには：1IDを図書館のみで契約しています。利用希望者は司書に申し出て下さい。代行検索をします。

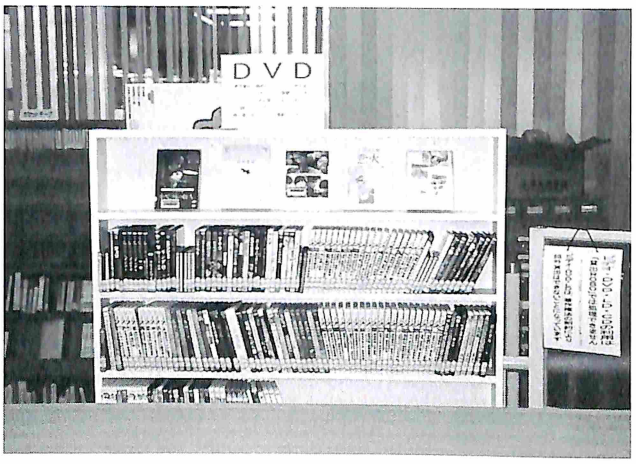
以上、3種の有料データベース検索ができますので、司書に相談してみて下さい。課金体系には、月額一定料金までは使い放題のものと、1件1件課金されるものがあります。卒研・レポート課題等には料金は徴収しません。遠慮なく申し出て下さい。

(N)

図書館ニュース

DVDの展示・収納棚が新しくなりました

今年度新たにDVDの展示・収納棚を購入しました。最上段には最新受け入れのDVDをジャケットが見える形で展示してあります。



第6回 七夕文学賞

◆恒例となりました七夕文学賞も、本年は右記のみなさんの作品が受賞となりました。

優秀賞 短歌　総合文化学科　2年　吉田　知世

夏の夜の 空に咲きたる 大輪は 浴衣姿の 横顔照らす

佳作 短歌　総合文化学科　2年　住吉　光代

笹の葉に そっと忍ばせし この想ひ 今は離れゐる 君へと届け

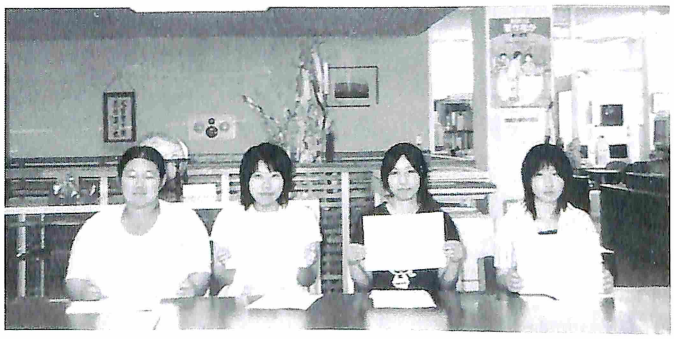
佳作 短歌　総合文化学科　2年　田中　裕子

冷水に 真っ赤なトマトぷかぷかと 真夏の色が あざやかになる

佳作 俳句　総合文化学科　2年　木下　綾

見上げれば とけてしまいそう 夏の空

（添削は長田真紀先生）



編集後記 a postscript by the editor

図書館司書から図書館情報学担当教員になって１年半になる。

感じることは図書館という存在のありがたみである。資料は多様化し、図書よりもデータベースを使うことが多くなったが、学習や研究の進展には欠かせない存在である。今後も利用者または研究者として「大学の心臓」である図書館を支援していきたい。（木）

みすず
第32号　上田女子短期大学附属図書館報
2005.12　発行

編集：上田女子短期大学図書館紀要委員会
発行：上田女子短期大学附属図書館

〒386-1214　長野県上田市下之郷乙620
Tel：0268-38-6019　Fax：0268-38-6019
Eメール：lib@uedawjc.ac.jp